第６回　伊丹市行財政審議会

議　事　録

伊丹市行財政審議会

第６回　伊丹市行財政審議会　議事録

１．日　時　　平成２７年１０月１３日（火）９：３０　～　１０：４５

２．場　所　　市役所７階　７０１会議室

３．出席者　　【委員】
松尾会長、和田副会長、明石委員、黒瀬委員、田爪委員、角田委員、
藤原委員
（欠席：明石委員、藤原委員）
【事務局】
後藤財政基盤部長、須磨財政企画室長、野中経営企画課長、
中畠財政企画課長、桝村総合政策部長、宮木政策室主幹、
辻本主幹、

４．傍聴者　　０人

５．議　事　　（１）開会
（２）議題
１）第５回審議会の議事概要について
２）伊丹市行財政審議会答申書（案）について
３）伊丹市中長期財政収支見通しについて
（３）連絡事項
（４）閉会

（１）開会

○事務局　・　本日は仲野委員が欠席だが、伊丹市行財政審議会規則第６条第２項により、過半数を満たしているため、会議は成立している。

○会長　・　本日の会議録の署名は、角田委員と藤原委員にお願いしたい。
・　本会議は伊丹市行財政審議会傍聴要領に基づき原則公開するとなっている。本日の傍聴者は０名である。

（２）議事　１）第５回審議会の議事概要について

＜事務局より資料に基づいて説明＞

（２）議事　２）伊丹市行財政審議会の答申書（案）について
議事　３）伊丹市中長期財政収支見通しについて

＜事務局より資料に基づいて説明＞

○会長　・　本日が最後の審議会でもあるので、答申書（案）への意見も含めて、一人ずつ意見・感想を伺いたいと思う。

○副会長　・　短期間で、行政の根幹になる持続的な都市のあり方という大事な問題を議論した訳だが、絵に描いた餅ではなく、現実的な問題を指摘し、都市の不確実性について切り込んだ印象がある。
行革というのは、市民にはなるべく安心感をもってもらうため、厳しい面は置き去りにし、将来の不確実性という部分で財政をどう使っていくかという議論になった時に、市民に厳しさを伝えなければならない反面、なるべく触れない様な議論が多かったが、伊丹市の答申書は不確実性が前提にあり、かつ戦略的に行うために必要な先行投資はリスクであると明言し、それを踏まえて短期的には先行投資をしていくが、中長期的にはその効果が出てくるという、マイナスとプラスの面がある分かりやすい構成になっていると思う。
二つの相反する前提がある建設的な答申書になっており、１８０億円余りの収支不足の積み残しはあるが、収支不足を半分以下にする計画を立てた事は評価出来ると思う。伊丹市の今後の計画と実施のあり方を拝

見させてもらいたいと思う。

○Ａ委員　・　これからは何処の都市も同じで昔のハコモノ行政の負の遺産があり、伊丹市も建て替えの時期が来ており、今どういう形でやっていくかが大事であると思う。こういう答申案をまとめられ、これからどうやっていくかを他人事ではなく、伊丹市民として注視しながら考えていきたい。

○Ｂ委員　・　伊丹市に２０年程住んでいるが、近隣と比べると小さくコンパクトにまとまっており、歴史的な文化や産業や空港や様々な分野で他には無いものを持っていると思う。

今回は今後３０年間で４５０億の収支不足をどうするかという方向性ということで、残念ながら全て解消とはいかないが、こういうプランが出来たのは良かった。子供たちの世代の負担を減らす取り組みが出来たかと思うが、長期的なプランであり、床面積を１０％減らすのも地域との調整等がスケジュール通りいくかも不確実であるものの、やってみないとスタートが出来ないので、まずは当初５年間で修正が必要となれば修正していけば良いと思う。

○Ｃ委員　・　伊丹市民として、伊丹市がこれだけ考えてくれており、これから安心して暮らしていけると思う。すごく魅力のある街なので、しっかりＰＲしてもらい、市民や市外の人にも色々知ってもらい、素敵な街にしていって欲しい。

・　ネーミングライツの話もあったが、流行ではないが、時代によってクラウドファンディング等の事業が出てきた場合に、いち早く事業に取り組み、ＰＲしてもらえれば市民の関心も広がると思うので、そういうところも楽しみにしたい。

○Ｄ委員　・　市民の方に理解してもらうのはもちろんの事ながら、このプランを職員全員で情報共有することが重要であり、人事異動もあると思うが、短期・長期のプランであるので、職員で勉強会をすることが重要であると思う。

短期・長期の検証を行っていくという事で、プランの修正も必要になっていくとは思うが、検証は誰が行うのか。毎年度検証を行うのか。

○事務局　・　検証は基本的には毎年度事務局において、取り組み効果額の検証を行い、伊丹創生についても検証機関を別に設ける予定があり、５年後には

審議会において総まとめとして、プランの実行に関してどうだったか、次はどうするかという議論を行う予定である。

○Ｄ委員　・　進捗状況は議会にも毎年度報告し、修正も毎年度繰り返していくのか。

○事務局　・　議会との関係としては、議会には毎年度決算時に資料を提出し、本会議や特別委員会を通して、質問や意見を頂きながら進めていく。

○Ｄ委員　・　作りっぱなしではなく、チェックはしっかり行って欲しい。

○事務局　・　議会においても、行財政プランの計画が実現できているかということについて関心が高く、行革の内容はもちろんながら、経常収支比率等の数値目標も達成できているか、達成に向かっているかを厳しくチェックされ、質問も多く頂いているため、現行の行財政プランにおいても作りっぱなしということはなく、新たな行財政プランにおいても必ず実現するという強い意志を持って取り組んでいくつもりである。

○Ｅ委員　・　一つ目の意見としては資料１－１の修正案の二つ目のところで改行する必要があるのかということ。前の文章に検証の必要性について書かれてあるので文章は繋げた方が自然ではないか。

二つ目は参考資料の効果額の積算の方法について、土地や財産の売却等の 1 回の措置で金額が見える完結するものと、例えば安全・安心インフラに対応するような量的措置ではない項目や状況が５年くらいの期間で変化するもの等の金額が見えてこないかもしれないものの３０年に対する説明をそれぞれどう示すのかと思う。

・　地方創生等に関するセミナーに出席した際に総務省の担当者から数値目標化出来ないものは政策推進を具体化できないので、学者に対して指標を数値化し明確に出来るようにして欲しいという要望があった。そういう点で考えると、どの自治体にも共通するが「魅力ある」や「魅力の発信」や「他市との差別化」というのは重要な表現であるが、具体的にどうするかという政策を明確にしようとすれば、見える化の努力が必要であると思う。効果の検証をしようとすれば、効果検証可能な形でのフレームワークや指標化の努力が必要かと思う。別の委員会で以前に聞いたところによると、観光客の訪問者数や、伊丹市であれば緑の多さ等色々あると思うが、例えばカメラであれば、カメラを付けた結果として事故率や盗難率等をフォローする必要があると思う。量的な指標でなく、質

的な要素を含むものに関しては、より明確化する方向に歩まなければならない印象を持った。

○会長　・　頂いた意見の中で、資料１－１の修正案の二つ目の項目について、文章の内容としては一つであるので、文章を繋げる形に修正をする。また、参考資料の中の項目には効果が一回限りのものと、効果が継続するものがあるので、それぞれの効果額の算出について補足説明をお願いしたい。

○事務局　・　参考資料の中で、例えば公民連携（PPP）の推進のところに公用車売却事業（塵芥収集車）とあるが、これはごみ収集体制の見直しで委託化を進めた結果、不要となる数台の塵芥収集車を売却するという事業で、臨時的に入ってくる効果額として、資料の最後に出てくるグラフにおいては臨時の一般財源削減効果に整理し、別に分析している。一方で経常の一般財源削減効果については、例えば先程述べたごみの収集業務の委託化を進めた結果、委託料と人件費の削減が効果として継続するような事業が対象であり、５年後以降も続くものとして分析している。臨時一般財源は５年後以降の効果は無いという分析の上で収支見通しに反映している。

○会長　・　表中において、どの項目が臨時か経常か分かるようにした方がグラフとの対応関係が分かりやすいと思う。

○事務局　・　分かりやすい形に修正し、行財政プランにも反映させる。

○Ｅ委員　・　例えば、都市計画法は５年以内に変わると思うが、そのことに関して中心市街活性化事業がどう変わるかは分からず、現在こうだろうというものが、変化することは当然あり得るので、平成２７年度における想定条件で今後も継続するという想定条件を書いておくと、市民にとって分かりやすいのではと思う。

○会長　・　伊丹創生の関係で行政の新しい進むべき方向性の施策について、行政と財政の両面で議論が出来たのではないか。地方創生に関して、ある程度の投資を５年間でやっていかなければならず、長期的に見れば財政的に貢献する、しかし不確実な点は否めず、評価をして見極めていく必要がある。公共施設の有効活用について、昨今どこの自治体でも取り組んでいるが、ここまで具体の施設や領域ごとの方針を書き込んでいる計画

は少ないのではないかと思う。個別の事案については、今後具体的な議論がされるかとは思うが、計画に書き込めたことは高く評価できる。一方で、本当に実施できるのかという点は大変であり、評価もきっちりやっていかないといけない。財政も事業の効果を見極めながら、予算を付けていくというようなことをやっていかなければならず、事業評価をしっかりやる必要がある。

市民に対する説明と職員に対する説明をきっちりやるという意見があったが、いかに効果の高い事業をタイムリーにスピーディーにやっていけるか、柔軟性に富んだ行財政運営を行っていかなければならないという点では、職員の能力の向上と努力が必要であると思う。

・　当初４５０億足りないという所でスタートしたが、現時点での見積もりでいくと、今後５年間の計画を実施していけば、収支不足額を１８０億までにする効果はあるが、まだまだ足りない部分はあるので、次の計画を立てる際に、更に厳しい計画を立てなければいないのか、もう少しマイルドな計画で良いのか、ということを今後検討して欲しい。

○事務局　・　会議の終わりに際して、財政基盤部長よりお礼申し上げさせていただく。

○事務局　・　昨年１１月４日に市長より、今後の市の将来を左右するような重い課題について諮問を受けて以来、審議会で６回、専門部会で４回を会長と副会長を始めとする委員の皆様に精力的な審議を頂き、答申案がまとまるところまで審議頂いたこと感謝申し上げる。毎回資料も膨大で内容も複雑であり、ご尽力お掛けしたと思うので感謝している。今後は答申を市長の方まで頂き、審議会の答申を十分に踏まえ、年内に行財政プランを策定し２８年度予算から反映する形を取っていく。審議の内容を踏まえ、行財政運営をさせていただく。市民、職員にも理解してもらい確実に内容を実現させなければならないと心に刻んでいるので、そういう思いで行財政運営を行っていく。

（３）連絡事項（省略）

（４）閉会（省略）